

9/16
和

OVERSEAS (安保法制に反対する海外在住者・関係者の会、オーバースイス)の発起人の一人、中溝ゆきさんに会の活動について聞きました。(内藤真己子)

OVERSEAS 中溝 ゆきさん



海外在住者、とくにヨーロッパや中東に行ったみなさんが共通して語るのはいと現・元海外在住者で「憲法9条、平和が日本のブランドになっており、それが日本人の安全を守っている」ということです。現地で「平和憲法ってすごいね」といわれる。海外で初めて憲法9条の良さを知らされるというんです。

安保関連法案が成立すればその「平和ブランド」が

海外で連帯行動

8月30日には国会前12万

平和が日本のブランド

人集会に合わせ世界いっせい行動を呼びかけ、13カ国21カ所で連帯行動が行われました。海外メディアは国会前行動を大きく報じたのに、日本の「読売」や「産経」は一面にすら扱いません。私たちは非常に違和感を覚えました。

私は留学で米国に渡り、去年の春まで23年間ロサンゼルスで暮らし金融機関などで働いてきました。14年前の9・11では惨状に衝撃を受け、遺族に心を寄せて「結束して立ち上がろう」のステッカーを車に貼って通勤していたこともあります。しかしテレビでテロの脅威があらわれるなか、米政府はイラクを攻撃すると言いつくしました。イラク戦争に突入しましたが結局、大量破壊兵器は見つからず、国家レベルのウソに大きなショックを受けました。

その後、日本では隣国の「脅威」があらわれるようになりまし。私は「これは軍拡して戦争をする国にするつもりだ。日本はアメリカの真似をしちゃうんだ」と焦燥感に駆られ、2012年の総選挙では「自民党だけには投票しないで」と友人に手当たり次第メールしました。

9条を守りたい

戦争をする国になれば軍費が膨れ上がり、社会保障や教育がますます削減され、膨大な借金を国民が背負わされることはアメリカをみれば明らかです。

海の内こう側から日本を見ていた海外在住者だからこそ見えるものがあります。その英知を結集して、内外の国民を危険にさらす安保関連法案は廃案にし、憲法9条を守りたいと思います。